

社協だより

令和6年8月15日 (第155号)

発行者
 社会福祉法人
 高山村社会福祉協議会
 TEL 242-1220
 FAX 242-1222
 印刷所
 (株) オフセット



世代間交流

七夕飾りを開催



参加者の皆さんと記念撮影



七夕の由来のお話



飾り付けを行う親子



願い事を書いた短冊を笹に飾り付け

子どもたちは、お母さんと一緒に折り紙を切ったり、飾り付けをするなど、とても上手に仕上げることができました。

参加したお母さんからは「作るのが大変でした」「子どもと一緒に七夕を作れて楽しかった」などの声が聞かれました。

最後に参加者の皆さんと記念撮影し、帰宅する際には、飾り付けした笹を持ち帰りました。

7月3日(水)、高山村社会福祉協議会では世代間交流事業として、更生保護女性会及びシニアクラブ連合会女性委員の皆さんのご協力をいただき、子育て支援センターを利用する親子の皆さんと「作ってあそぼう七夕さま」を開催しました。

最初に、子育て支援センター職員から、七夕の由来のお話を聞いた後、それぞれ4テーブルに分かれ七夕飾りを行いました。今年も9組20人の親子が参加し、網飾り(天の川)や吹き流しなどを作り、願い事を書いた短冊とともに笹に飾り付けを行いました。

主な掲載記事

社協の決算	2
小学生サバイバルご飯作り 他	3
社協からのお知らせ 他	4
社協の役職員紹介	4



社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で発行されています。

令和 5 年度 社協収支決算の概要

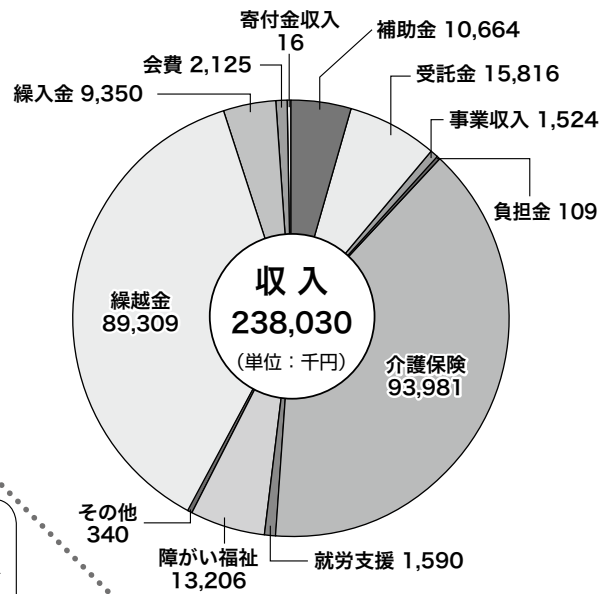
令和 6 年度第 1 回理事会及び定時評議員会を 6 月に開催し、令和 5 年度事業報告、一般会計資金収支決算が原案どおり承認されました。

令和 5 年度の収入総額は 2 億 3,803 万円で、前年度に比べて 2,624 万 2 千円の減となりました。

一方、支出総額は 1 億 5,940 万 3 千円で、前年度に比べて 1,556 万 1 千円の減となりました。

今後も「誰もが住みなれた地域で安心して暮らし続けるために」利用者の立場に立ち、満足の得られる地域福祉サービスに努めてまいります。

収入の状況



支出の状況

◆就労継続支援 B 型事業所

一般就労が困難な方を対象に、働く場を提供し、知識及び能力向上の訓練を実施しました。

- ・年間開所日 …………… 240 日
- ・利用延べ人数 …………… 1,584 人

◆フラワーセンター

B 型通所者及び共同作業所の就労訓練の場として花鉢等を栽培し販売するほか、村内の花いっぱい運動事業へ苗を供給しました。

10,308 鉢販売

◆高齢者福祉センター 管理運営事業

村内の高齢者の皆さんに交流や入浴等のため施設を利用して頂きました。

- ・高齢者センター
開所日 …………… 341 日
利用延べ人数 …… 9,788 人
(7 月～9 月熱中症対策により無料開放)
- ・松の湯荘
利用延べ人数 …… 1,822 人

◆総合事業

高齢者交流センター「松の湯荘」において、送迎により運動、レクリエーション、入浴・食事等のサービスを提供しました。

- ・開所日 …………… 253 日
- ・利用延べ人数 …………… 1,822 人

◆訪問介護事業

ホームヘルパーが利用者宅を訪問し、身体介護及び生活援助のサービスを提供しました。

- ・年間提供日数 …………… 300 日
- ・利用回数
介護保険 …………… 2,757 回
障がい自立支援 …… 210 回
軽度生活支援 …………… 26 回

◆通所介護事業

デイサービスセンターにおいて、送迎により、入浴、機能訓練、レクリエーション、食事等のサービスを提供しました。

- ・年間稼働日数 …………… 310 日
- ・利用延べ人数
介護保険 …………… 5,631 人
障がい自立支援 …… 278 人

◆法人運営事業

社協の適正運営及び組織体制の充実に努めるとともに、職員の専門性を活かし、資質向上に努めました。

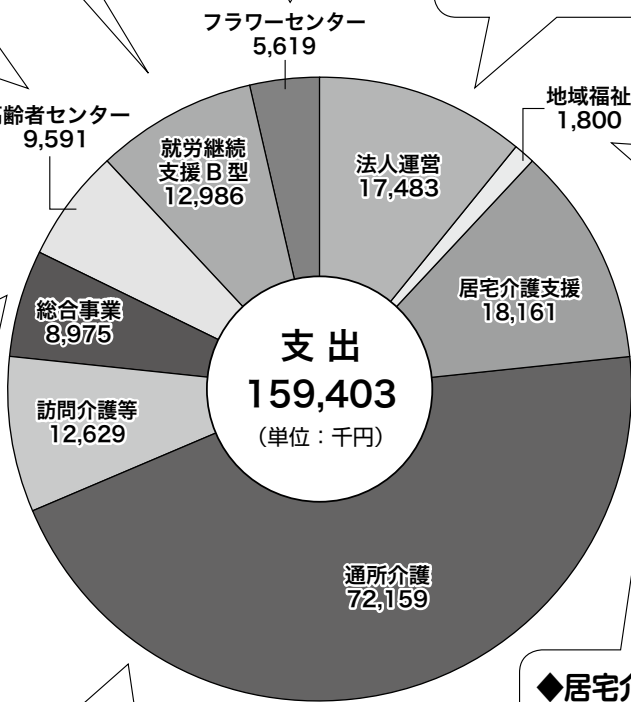
◆地域福祉推進事業

- ・ボランティア育成支援
- ・サロン事業支援
- ・金銭管理、財産保全サービス
- ・福祉団体育成
- ・福祉輸送サービス
- ・結婚相談
- ・くらしの資金、生活福祉資金貸付など

◆居宅介護支援事業・相談支援事業

ケアマネジャーが利用者や介護家族の状況、希望を総合調整し、適切な介護サービス計画（ケアプラン）を作成し、在宅介護を支援しました。

- ・ケアプラン作成件数 …………… 1,450 件
- ・障がいサービス計画作成件数 …… 15 件



小学校わくわく村

サバイバルご飯作り

7月13日(土)、高山小学校わくわく村と高山村社会福祉協議会の共催で、小学生サマーチャレンジ「災害ボランティア講座・サバ飯体験」を防災資機材備蓄倉庫で開催しました。

最初に、村総務課危機管理防災係の担当者から、備

蓄倉庫内の案内を受けた後、いざという時に、調理器具が無くてもご飯が炊けるサバイバルご飯作りにチャレンジしました。

作り方は、釜とコンロ用のアルミ缶2個と燃料用の牛乳パック3〜4枚を使用し、釜となるアルミ缶の上蓋を



火が消えないよう火力を調整



サバイバルご飯は「おいしい」

切取り、米120gと水を入れ、コンロ用のアルミ缶に牛乳パックの燃料を入れる穴と、風を送る穴をカッターで4ヶ所開け、そこへ短冊状に切った牛乳パックを投入し、燃やすことで、ご飯が炊き上がります。

燃料の牛乳パックを1本ずつ確実に投入し燃やすには、タイミングと根気が必要で、なかなか難しく苦労していました。

参加した皆さんからは「5〜6回参加しているけれど、今回のサバ飯が一番よくできた」「おいしくできた」「楽しかった」などの声が聞かれました。

デイサービスセンターの七夕飾り

7月8日(月)から7月13日(土)までの6日間デイサービスセンターでは、利用者の皆さんと職員による七夕飾りを作りました。

静養室の壁に竹の切り絵を貼付けた後、利用者の皆さんが書いた短冊を一つひとつ丁寧に貼りました。「普段、字を書かないから上手く書けない」「代わりに書いて」「恥ずかしい」など、最初は少し戸惑っていましたが、多くの利用者の皆さんは自分の字で「肩が良くなる」など書いていました。



短冊を丁寧に貼り付ける利用者の皆さん

「食の祭典」に出店しました

6月23日(日)にYOU游ランド芝生広場で開催された「信州高山食の祭典」には、



花苗を購入する来場者

高山村の特産物や名産品を楽しめるブースにフラワーセンターも加わり、花苗の販売を行いました。

当日は雨天にも関わらず、子どもから高齢者の方まで大勢来場し、「それいけーアパンマンショー」や「小島よしおステージショー」などを楽しむお合間に、マリーゴールドやニチニチソウ、キキョウなどの花苗を購入いただきました。

日赤会費の納入 ありがとうございました



区の役員さんを通じて会員の皆さまからお寄せいただいた会費は、63万2千円となりました。ご協力をいただき、大変ありがとうございました。

日赤会費は、地震や風水害など災害が発生した際の

災害救護活動を始め、医療事業・血液(献血)事業、国際活動など、命をつなぐ9つの赤十字事業に利用されています。

日本赤十字社では、引き続き活動に賛同していただける新規会員を募集しています。

詳しくは高山村社会福祉協議会へお問い合わせください。

☎242-1220

高齢者福祉センターを 無料開放に

7月1日(月)から9月30日(月)までの3ヶ月間は、午前9時30分から午後4時まで、熱中症予防対策のため高齢者福祉センターを無料開放しています。

エアコンの入った休憩室や休憩スペースで快適に過ごしていただき、健康保持に努めてください。

利用者の皆さんからは、「家に居るより快適で過ごしやすい」「汗をかいた後の風呂は疲れが取れていいね」などの声が聞かれました。

能登半島地震災害義援金に ご協力いただきました

6月21日(金)、高山小学校生活委員の代表者が、全校で集めた能登半島地震災害義援金20,184円を高山村社協事務局に持参いただきました。

小学6年生の生活委員の皆さんが中心になり集めていただいた義援金は、日本赤十字社長野県支部を通じて能登半島地震の被災者の皆さんにお届けします。



高山小学校生活委員代表者からの義援金

デイサービスセンター入口に 花植えを行いました

しの際は、綺麗な花をご覧ください。



デイサービスセンター入口の花植え

6月14日(金)、就労継続支援B型事業所では、利用者の皆さんと職員が、デイサービスセンター入口と居宅介護支援事業所の前庭に花植えを行いました。デイサービスセンターを利用されている皆さんが、綺麗に咲いた花をご覧になり、少しでも暑さを忘れ、気分が癒されればとの思いで作業を行いました。

デイサービスセンターや居宅介護支援事業所へお越

社協役員の紹介

よろしくお願ひします

- 会長 内山 信行
- 副会長 藤沢 敏和
- 副会長 田中かつ子
- 常務理事 黒岩 慎

理事

- 梨本 進 小出三千雄
- 善哉のぶ子 涌井 富生
- 小林 誠二 山田麻記子
- 大川 恵美 松本 和子

監事

- 中村 義忠 山崎 隆子

評議員

- 浦埜 愛子 小坂橋千文
- 滝澤みき枝 樋口 典子
- 宮川千恵子 黒岩 道子
- 斉藤 優子 渋谷 一三
- 平林 祐子 山崎 泉
- 本多千賀子 山岸 弘子
- 松本 利昭

能登半島地震災害義援金 446,517円

ウクライナ人道危機救護金 273,427円

7月末までの義援金・救護金

引き続き能登半島地震災害義援金を受け付けています。
皆さまの温かいご協力をお願いします。



本誌掲載の記事について
のお問い合わせ・申込先は、
高山村社会福祉協議会まで
☎242-1220